

臨床研修カリキュラム

養成コース [ 小児内科 ]

全体目標:小児科診療の基本を身につけ、主な小児疾患について幅広く学び、小児科領域基本的な診療ができる。

個別目標:

	2カ月	3ヶ月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	子どもや保護者と適切な人間関係を構築しながら、病歴の聴取が出来る。	病歴聴取に加えて、子どもや家族を取り巻く環境についても把握できる。
2	新生児・小児の身体診察が出来る。小児の成長・発達が評価できる。	成長・発達に異常を来す主な疾患を鑑別することができる
3	検査値・各種画像所見について成人と小児の相違点を理解し、評価できる。	
4	小児の栄養の特徴を理解し、栄養状態を適切に評価できる。	
5	新生児や小児の採血、末梢静脈確保、胃チューブ挿入、浣腸が実施できる。	指導医の下で腰椎穿刺、骨髄穿刺、経皮的中心静脈カテーテル挿入、動脈血採血が実施できる。
6	検査および処置時の鎮静・鎮痛に関して、実施法、合併症を理解し、指導医の下で実施することができる。	鎮静・鎮痛による有害事象に対して初期対応できる。
	各種超音波(頭部・心臓・腹部・その他)の適応及び実施方法、合併症を述べることができる。	各種超音波検査について指導医の下で実施できる。
7	小児の輸液について、基本的な知識を習得し、適切な投与方法、量、速度を選択できる。	代表的な疾患に対する薬剤(抗菌薬、抗けいれん薬、ステロイドなど)について適切な投与方法、量、速度を選択できる。
7	出生直後の新生児について、NCPR に則り、指導医の下で基本的な蘇生処置(蘇生の初期処置、マスクCPAP、マスク&バッグ)ができる。	指導医の下で NCPR に則り、高度な蘇生処置(気管挿管、胸骨圧迫)を行うことができる。
8	病歴や身体所見及び疫学情報から感染症を推定し、小児の特性を理解しながら、必要な検査や結果の解釈及び治療方針の立案ができる	
9	予防接種の重要性、実施方法、禁忌、関係法規を理解する。	指導医の下で予防接種を適切に実施し、養育者に接種予定、効果、副反応を説明できる。
10	救急の場で小児の特性を理解し、年齢に応じたバイタルサインを把握し、重症度をトリアージできる。	小児救急で見逃してはいけない代表的な疾患を考慮しながら、問診、検査を進めることができる。
11	新生児の生理について理解し、新生児特有の代表的な疾患について診断し、治療法について立案できる。	
12	小児の高度医療、希少疾患に関連した検査や治療をチーム医療の一員として実践することができる。	
13	小児患者の尊厳に配慮し、在宅治療の推進や死亡	

	確認および遺族への対応が行える。	
14	指導医の指導監督のもとで病状説明ができる。	

#### 方略:

病棟で3人程度の患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。

- ・ 教授回診…週1回(水)。受け持ち患者に関してプレゼンテーションを行う。
- ・ 小児内科・小児外科合同のモーニングカンファレンスで当直帯に外来受診または入院した患者について、広く学ぶ。
- ・ 小児科内レジデント回診、血液・悪性腫瘍チーム回診、循環器チーム回診、新生児チーム回診
- ・ 小児科レジデントレクチャー、抄読会、アカデミックミーティング
- ・ 血液固形腫瘍カンファレンス、NICU 多職種カンファレンス、PICU 多職種カンファレンス、心臓カテーテルカンファレンス、発達障害カンファレンス、各種小児科症例検討会などに積極的に出席して、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- ・ 合同カンファレンス…小児科、小児外科、放射線診断部、放射線腫瘍部、病理部による合同カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- ・ その他、地方会や勉強会に積極的に参加する。

#### 評価:

- ・ EPOC II による評価を行う
- ・ EPOC II による看護師等からの多職種評価を行う
- ・ 総合臨床教育センターにて半年に1回面接評価を行う